

事務事業評価

令和 4 年度

担当課		スポーツ課				
			整理番号		2610	
実施を義務付ける規定				○あり　●なし		
10 款		5 項		2 目		●継続　○新規
業 分		助成・育成				
すること、日本代表業講師精神や力しよう		計 画 期 間	始期	平成	26	年度から
			終期	令和		年度まで
活躍している新旧選手から、講義を受け根気強く努力しようとする姿の実現。						
各校14校に様々なアスリートを派遣して（実施予定）						
	単位	2 年 度	3 年 度	4 年 度		
目 票	クラス	12	14		24	
実 績	クラス	12	14		24	
達 成 率	%	100.0	100.0		100.0	
目 票	クラス	12	14		24	
実 績	クラス	12	14		24	
達 成 率	%	100.0	100.0		100.0	
目 票	クラス	9	9		24	
実 績	クラス	9	9		24	
目 票	クラス	12	14		24	
実 績	クラス	12	14		24	
度		4 年 度		5 年 度		
		予 算		計 画		
0,047	4,733		4,791			
0,047	4,733		4,791			
0,435	10,942		10,942			
0.86	1.48		1.48			
0,482	7,393		7,393			
0,482	15,675		15,733			

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている これまでのアンケート結果から事業の継続を願う声が多い。他市から転入し、初めて知った市民から称賛の声を聞く。	判定 A
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 市としてのメリットがあり、日本サッカー協会との調定、契約、実施を考えると民間では困難と考える。	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 最高学年になる前の小学5年生及び中学2年生で実施することは、最高学年に向けリーダー制をもって体験を実現するに当たり適切である。	A
	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか （成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成）	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 事前打ち合わせで周知を図り、ゲームの時間、トークの時間と子どもがなじみやすい適切な手法がとられている。	A
有効性	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある コロナ禍が終息し、夢先生と対面できるようになると、さらに効果があがると考えられる。	B
	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか （活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成）	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 実施したクラスの担任のアンケートでは、全員が「教育効果があった」と回答しているため、活動結果が得られている。	A
効率性	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 夢の教室週間を設けるなどして、期間をまとめることで費用が軽減できると考える。会議等の学校現場の実情に合わせた検討が必要である。	B
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある スポーツ振興の概念があるため改善の必要はない。	A
	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 小学5年生及び中学2年生を対象に設定しているため、市内児童生徒に余すことなく実施できている。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか		A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			2.80

◎ 総合自己評価（所管部署）	
評価結果	● A 継続実施（特段の見直しは行わない） ○ B 改善・見直しを行う ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）
判断理由	事業を開始して9年目であり、事業へ対する理解が深まりつつある。 また、令和4年度から中学2年生も対象になり、児童生徒からは対象学年になると受講できることを楽しみにしている様子がうかがえる。
今後の課題及び改善策、見直しの状況	（実施上の課題等） 夢先生の希望を相談しているが、夢先生のスケジュール等で指定ができないとのこと。
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載してください。	

【2次評価】

総合判定	A 継続実施（特段の見直しは行わない）
備考	未来ある子ども達に夢をもつことのすばらしさや、夢に向かって努力することの大切さを伝えることは理解でき、また現場教諭の満足度も高いとの評価を受けている。今後、「夢先生」招致の日程調整による効率的な事業の実施を行っていただくとともに、授業後の子供たちの心の変化などの効果検証を行い、事業効果を高めてもらいたい。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① ☐ 事業費縮減（事業の見直し）	③ ☒ 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② ☐ 民間委託等によるコストの縮減	④ ☐ 事務の効率化による現状維持（事業内容の拡充）	58（千円）